

北区に「まちごと・まるごと」

洪水ハザードマップ

町全体を洪水ハザードマップに。洪水のときの避難場所などを電柱に記した「まちごと・まるごとハザードマップ」が北区内に設置されている。水害の危険性を知り、備えてもらおうと国土交通省の荒川下流河川事務所が考案した。

区内の主要道路に沿った約200柱おきの74カ所の電柱に表示板をつけた。「ここは荒川の氾濫により4メートル以上浸水するおそれ」などと書かれ、想定される浸水の深さ、洪水時の避難場所が分かる。3メートル以上の浸水の深さがイメージできるように青いテープの巻き印もつけた。

避難場所は、区外からの通学・通勤者が携帯電話の地図に表示できるようQRコード（バーコードの一種）も表示した。表示は、想定される浸水の深さを色別にした北区の洪水ハザードマップを基に

電柱74カ所に表示板

国交省・荒川下流河川事務所が考案

東京の東部地区は約80年前に荒川の放水路が整備されるまでは水害が多かった。現在は、水門管理などにより水害はほぼなくなったが依然として低地は多い。区内中心を通るJR京浜東北線の西側は高台だが、東側が低地となり、最大で5メートルの浸水が予想される。

同事務所によると、ハザードマップを見た人を見ていない人は、避難行動に1時間の違いがあるという調査結果もあるという。このため、目ごろから目につく所に表示板を設置し、防災意識の向上につなげるねらいもある。北区を皮切りに設置を広げていく考えで、同事務所の森久保司調査課長は「水害なんて想像したことがない人も多いと思う。防災意識を高めるきっかけになれば」と話している。

【益子香里】



北区内に設置された浸水情報などを記した電柱の案内看板

浸水の深さ、避難場所、QRコードも